

九州森林の日 に植樹祭を開催

【鹿児島森林管理署】

11月19日、当署、鹿児島県、かごしまみどりの基金の主催による「九州森林の日」植樹祭を霧島・錦江湾国立公園内の霧島山国有林1082林班で開催しました。

この植樹祭は2008年5月に九州7県及び九州森林管理局が宣言した「九州の森林づくりに関する共同宣言」の行動指針に基づき、九州における「美しい森林（もり）づくり」を推進するために、毎年実施しております。今年で15回目になります。

今回の会場は8月8日に当署と「社会貢献の森づくりに関する協定」を締結された「かごしま持続可能な次世代の杜協議会」5者、(株)迫田興産、霧島神宮、(株)INFLUX、(一社)加治木猟友会、(株)山崎産業に植樹祭の事前準備等のご協力をいただきました。

当日は、あいにくの雨模様の中、緑の少年団、協賛企業、森林ボランティア団体など約27

0名が参加しました。

式典で、塩田鹿児島県知事は「健全な森林を維持し、未来に引き継ぐためには、県民一人ひとりと森と川と海は一つである」という認識を持ち、環境保全活動



式典の状況



参加者による植樹

に取り組む必要がある」と挨拶、その後、学校環境緑化・学校林等活動コンクール表彰、緑の少年団活動発表大会表彰及び緑の募金感謝状表彰を行いました。植樹活動では、当署職員による植え付け方法の説明後、恵みの雨となった伐採跡地にヤマザクラやイロハモミジ、ヤマボウシなど11種類の苗木2,000本を植えました。

今後は、協議会メンバーにより、下刈りなど森林整備、歩道を整備しますので四季折々の変化を楽しめる憩いの場として楽しんでいただければと考えます。最後に、参加者には「森からの贈り物」として「県民の森」で育てたアロエヤトキワカンゾウなど5種類の苗木をプレゼントしました。

「蘇る吹上浜白砂 青松の森」森林整備 活動（植樹）を 実施

【鹿児島森林管理署】

12月4日、(公財)かごしまみどりの基金と鹿児島森林ボランティア連絡会の主催による「蘇る吹上浜白砂青松の森」森林整備活動(植樹)を県立吹上

浜海浜公園及び網揚国有林で開催しました。

この活動は当基金及び森林ボランティア連絡会が、平成15年から9月第3日曜日を全国一斉「森林ボランティアの日」と制定したことに因んで、県内各地で森林づくり活動に取り組んでおり、今年で20回目の開催となります。

開会で、鹿児島森林ボランティア連絡会代表の塩川英彬氏は、「昨年度から吹上浜の国有林で5力年間、植栽から保育作業に取り組むこととしており、立派な松林になるようお願いを込め



参加者による植樹

て植えていただきたい」と挨拶がありました。

その後、作業上の留意事項の説明を受け、マツクイムシ被害跡地に抵抗性クロマツの苗木1,000本を植樹しました。参加者からは、昨年植えた箇所がほぼ100%活着して生育良好な姿に感心するとともに、心地よい汗をかきながら整然と植えられたマツに達成感を味わっていました。

今回の植樹活動には県内より約130名の参加があり当署からは永山正一署長以下6名が参加しました。



植樹活動に参加された皆さん

クリスマス用の モミの木を贈呈 しました

【大分西部森林管理署】

12月9日、日田市のフレイベル三芳幼稚園にクリスマスツリー用のモミの木（高さ約4m）を贈呈しました。モミの木は、玖珠森林事務所内から採取したもので、当日は5名の職員が園に届けました。



飾り付けられたモミの木に触れる園児の皆さん

職員がモミの木を運動場から屋内に運び込むと、160人近い園児からの盛大な拍手と歓声があがりました。先生からのご紹介をいただき階段下のフロア

にモミの木を設置後、園児の皆さんからのお礼をいただきました。

また、12月21日には同幼稚園の「もみの木会」にご招待していただき、3名の職員が参加しました。モミの木を囲み「もみの木会」のセレモニーが始まり、先生から当署の仕事についてご説明がありました。

園児たちの代表からモミの木の御礼として手作りの感謝状とプレゼントが職員に贈呈され、平井郁明署長から「サンタさんと一緒にクリスマスツリーのモミの木を山で探してきました。元気に楽しいクリスマスを迎えてください」と返礼の挨拶を行いました。

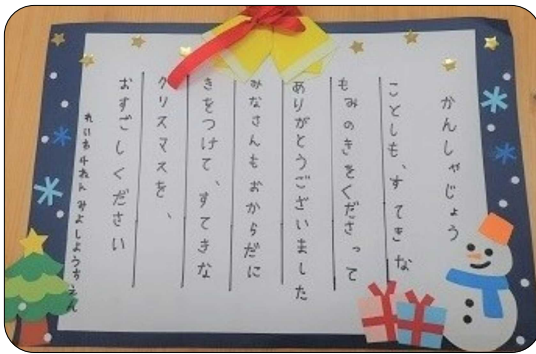


園児の代表から感謝の言葉

園児たちは鮮やかに飾りつけられたモミの木を順に触る、近くで眺めるなどして、元気あふれるクリスマスソングとダンスの披露があった後、園長先生から丁寧な挨拶をいただき、園児たちの盛大な拍手での見送りを受けて園を後にしました。

私たちも園児の皆さんの明るい笑顔と心のこもった感謝状から元気をいただき、素敵な年末になるよう頑張りたいと思っております。

（モミの木の贈呈は同園が1967年に開園した当初から続く行事で、毎年、地元マスコミの取材もあり、当署では恒例となっております。）



園児から頂いた感謝状

★園児から頂いた感謝状★

かんしゃじょう
ことしも、すてきなもみのきをくだけてありがとうございます。
ました。

みなさんもおからだにきををつけて、すてきなクリスマスをおすごしてください
れいわ4ねん
みよしうちえん

アサヒビール調印式
及び白谷雲水峡清掃
ボランティアの実施

【屋久島森林生態系保全センター】
11月25日、屋久島町役場本庁で、屋久島レクリエーションの森保護管理協議会とアサヒビール（株）との間において、「レクリエーションの森の整備・管理及び活用に関する支援協定」の調印式が行われました。

調印式では、アサヒビール・土井栄二九州南部統括支社長と協議会会長代理の日高豊副町長双方が協定書に調印を行い、今回で4回目の更新協定となりました。

本協定は、ヤクスギランドや白谷雲水峡等の屋久島レクリエーションの森に対し5年間、資金や環境保全美化活動への労力を提供する内容となつ

ており、初回は平成20年5月に締結されています。

調印の後、土井栄二九州南部統括支社長からの挨拶や日高豊副町長からの謝辞があったほか、屋久島森林管理署 黒木興太郎署長から挨拶があり、協定更新についての感謝、レクリエーションの森での取り組み、今後のアサヒビールの活躍への期待等が語られました。

翌日の26日は、白谷雲水峡において、協定に基づくボランティア活動を実施しました。このボランティア活動は毎年行われていたものですが、一昨年・昨年に新型コロナウイルス感染症防止の観点から中止になっており、令和元年度ぶりの再開となりま



調印式に参加された皆さん



す。内容としては木道の清掃（苔落とし）で、小雨の降る中での作業でした。アサヒビル関係者14名を含めた総勢49名の参加者が一生懸命デッキブラシを使って木道を磨いたことで、苔やぬめりが取れて滑りにくくなり、より安全で快適な登山ができるようになりました。

「ニッセイの長崎の森」育樹ボランティアを支援

【長崎森林管理署】

12月3日、「ニッセイ長崎の森」（神浦岩背戸国有林分収造林地）において、日本生命長崎



枝打ちに苦勞しながら頑張るお子さん

当日は、晴天の中、日本生命作本豪長崎支社長の本主催者挨拶、高木敏長崎森林管理署長の来賓挨拶の後、福山拓也森林技術指導官から枝打ちの目的、作業方法及び安全指導を受け、記念撮影後に6班に分かれ各作業地に移動し、作業を実施しました。

参加した子供たちは、初めて持つ手鋸に悪戦苦闘しながらも、職員の指導のもと短い時間で枝打ち作業に楽しく取り組んでいました。

作業終了後は、長崎県民の森「森林館」に移動し、森林の働きについて学習するとともにヒノキの枝打ち作業により、将来節のない良質材が生産できることを願いつつ、各自帰途へとつきました。

木道をデッキブラシで磨く参加者

支社、ニッセイ緑の財団とその家族55名が参加し、育樹（枝打ち）ボランティアが開催され、当署職員8名が作業指導等を実施しました。

この育樹活動は、日本生命保険相互会社の職員で構成する「ニッセイの森友の会」が職員や地域の方々に森林のづくりの大切さを理解していただくため、全国各地の「ニッセイの森」で実施しているものです。



育樹ボランティアに参加された皆さん

遊々の森でボランティア林業を実施

【熊本森林管理署】

12月3日、吉無田国有林において、食とみどり・水を守る熊本県民会議主催による第20回ボランティア林業が開催され、当署職員11名を含む55名が参加しました。

同県民会議は、森林の役割や管理の大切さをアピールするとともに、水源涵養の機能向上を目的とした体験林業活動を例年実施してきており、現地は平成27年度に当署と「未来の源・遊々



シイタケの駒打ちをするお子さん達



親子で仲良くクリスマスツリーを作成

の森」として協定を締結しています。

当日は秋晴れの中、開会式では主催者挨拶に続いて井上智晴署長から「ボランティア林業を長年にわたり続けていることに敬意を表するとともに、今後とも継続した活動を期待します」との来賓挨拶を行った後、当署南阿蘇森林事務所の塚本順一首席森林官より現地の概要説明、下大迫伸一森林技術指導官から作業上の注意事項等について指導しました。

参加者達は、当署職員の指導のもと、事前に準備されたクヌギの椎茸原木にシイタケの駒打ち作業を行う傍らで、子供達は色付けた松ボックリを利用し

たクリスマスツリーの工作に熱中する有意義なひとときとなる等、自然の中で食とみどり・水を満喫する一日となりました。当署としては、引き続き関係機関等と連携して森林ボランティア活動及び森林環境教育活動を積極的に推進していく考えです。

エリートツリーに驚き

【森林技術・支援センター】

九州地区特定母樹等普及促進会議の一環として、特定母樹に指定されたエリートツリーの原木視察が、11月8日に宮崎森林管理署管内の茶臼岳国有林2172ろ林小班内の九熊本第10号次代検定林において開催され、森林技術・支援センターから白濱正明所長と岩下正斉森林技術普及専門官、宮崎森林管理署から綾森林事務所の坂本雄二首席森林官、その他九州各県の林木育種担当者や苗木生産者など33名が参加しました。

冒頭、今回の原木視察は、実際に特定母樹に指定されたエリートツリーを見てみたいとの要望が多かったことから開催されました。エリートツリーについて



下から見上げた次代検定林の林内

は、エリートツリー等の導入が不可欠となります。

次代検定林については、一般次代検定林含め遺伝試験林、育種集団林など、九州局管内に163箇所設定されており、その中には、エリートツリーになったものや、今後、エリートツリーになるものも存在するかもしれませんが。一度、訪れてみてはいかがでしょうか。

（※1）持続的な食料システム構築に向け、2050年までに目指す姿とそのための方針を指す。シヨンの道筋をまとめた戦略（※2）「エリートツリー等」の苗木は、特定母樹由来の苗木を指す。

は、植えてから数年後の状況は、九州育種場の苗木や試験地等で、目にする機会はありませんが、利用期を迎えた原木を見るのは、初めての方も多く、見事な姿に一同、驚いた表情でした。この次代検定林には、特定母樹指定のエリートツリーとなつて7品種があり、その中には、胸高直径40cm、樹高30mを超えるものもあります。みどりの食料システム戦略（※1）では、エリートツリー等（※2）の成長に優れた苗木の活用について、2030年までに林業用苗木の3割、2050年までに9割以上を目指すとしています。また、伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」の実現に向けて



スギ九育2-132 (52年生) 樹高28.6m 胸高直径46cm

市議会議員・県職員が早生樹現地調査を実施

【森林技術・支援センター】

『人吉市藍田財産区』

人吉市藍田財産区議会議員研修（人吉市議会議員8名、人吉市役所職員3名、計11名）として、宮崎森林管理署都城支署管内及び宮崎北部森林管理署管内の早生樹（コウヨウザン・センダン）植栽地の現地調査が11月15日、16日に実施されました。人吉藍田財産区は人吉市に山林約一千haを所有しており、その多くが利用期を迎えています。主伐後の更新を確実にを行うための樹種を検討していることから、熊本南部森林管理署へ依頼があり、今回の研修に至ったもので、15日は、林木育種センター九州育種場が宮崎森林管理署都城支署管内の黒原国有林3017ほ林小班に設定している次代検定林（平成24年3月設定）境界木のコウヨウザンについて、熊本南部森林管理署の川口文明森林技術指導官から現地の

概要、森林技術・支援センターの白濱正明所長からは、コウヨウザンの特性や九州森林管理局の早生樹の取組等について説明しました。

翌日の16日は、宮崎北部森林管理署の音羽山国有林2く林小班において、人工植栽のセンダンと天然更新のセンダンの成長観察で、これまでに得られた成果や今後の育成方法について大寺義宏業務係長より説明を行いました。藍田財産区の皆様からは、「成長が早いのは良か、ぼう芽や天然更新が出来るとも良か」などの意見やシカ被害や、木材としての利用方法及び育成方法等についての質問も数多く



現地を視察する人吉市藍田財産区議会議員の皆さん

ありました。最後に藍田財産区の神瀬議長様から、約50年保育して収穫するスギ、ヒノキではなく、20年程で収穫できる早生樹の可能性について、大変勉強になった、今後の再造林と樹種として検討していきたいとの言葉もあり、昔も今も森林経営について意欲的に活動されていることを感じた日となりました。

『宮崎県林業普及指導員』

宮崎県内各振興局の林業普及指導員16名の研修が、11月17日、音羽山国有林2く林小班において実施され、岩下正斉森林技術普及専門官、西村寺隆行政専門員が講師となり、現地説明や目的等について説明を行いました。

林業普及指導員からは、施業方法や目標形状比等の質問に加えて、シカ被害や台風通過後の被害状況についての質問がありました。特に注目されていたのが、人工植栽のセンダンと天然更新のセンダンの成長の違いでした。宮崎県でも早生樹（センダン、チャンチンモドキ、コウヨウザン外）植栽の取組を進められているとのこと。

森林技術・支援センターでは、この試験地を含め、天然更新による育成技術についても取り組

んでいるところであり、得られた成果について普及するとともに、人材育成の研修の場として活用していくこととしております。



現地で説明を受ける宮崎県林業普及指導員の皆さん

「モンスターウルフ」 説明会を開催

【鹿児島森林管理署】

11月30日、全く新たな獣害防止対策の取組として野生動物撃退装置「モンスターウルフ」の説明会を県や市、林業事業者や猟友会など約20名の参加を得て、当署会議室及び霧島山国有林にて開催しました。

モンスターウルフは「獣害対策のオオカミ型ロボット」で、赤く光る目と、鳴き声などでシカやイノシシを威嚇する装置です。今年8月に「社会貢献の森」の協定を締結した「かごしま持続可能な次世代の杜協議会」が新たな獣害対策を導入するもので鹿児島署も協力しています。

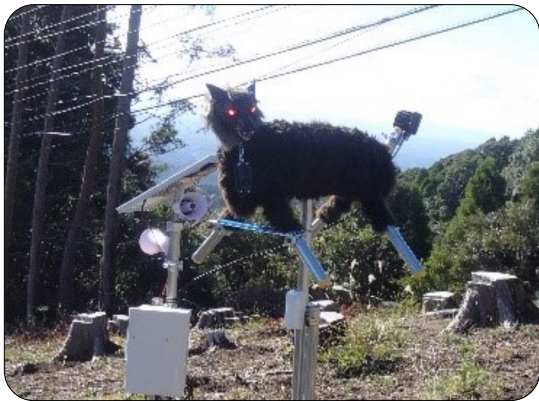
午前の説明会では、同協議会代表の（株）迫田興産代表取締役迫田成満氏は「従来の獣害侵入防止柵では、シカが引つかかるなどの事故が発生する恐れがあり、隣接するホテルや別荘地への影響を勘案して新たな取組を模索した」と導入の経緯を話されました。続いて、装置の開発・製造元の（株）太田精器 代表取締役 太田雄治氏が「当初は、こんな子供だましで効果があるのか笑われバカにされた。しかしながら、現在は全国で140台ほど設置して返品はない」と実績と効果をプレゼンテーションしました。

午後からは現地に移動して、シカの侵入経路や地形、隣接するホテル等への影響等を考慮して設置を行い、

当面は、センサーの感知精度や音量などの確認と、シカの行動変化等を観察することとしています。今回、意見交換をするなかで、この装置は主に農地や牧



現地で設置箇所の検討



現地に設置された「モンスターウルフ」

場等に設置されており国有林内に設置するのは初めてということであり、今後、効果の検証を行い新たな獣害防止対策の一手法となることが期待されます。

芦北地区特定民有林 直轄治山事業の見学 ・学習会を実施

【熊本南部森林管理署】

10月27日、「若者プロジェクト（署の活性化を図るため若手職員で結成）」の取組の一環として、プロジェクトメンバー4名のほか、赤星良治署長、木倉浩二総括治山技術官も同行し、当署管内で令和2年7月豪雨災害に伴い施行されている芦北地区特定民有林直轄治山事業地の見学・学習会を実施しました。

署から芦北に向かう車窓から見える球磨川沿線では、至る所で国や県などの災害復旧工事が行われおり、災害の傷跡や復旧工事の状況を眺めながら、「治山事業の目的」、「森林整備や治山事業の効果」、「災害時における森林管理署の役割」などについて、赤星良治署長の話を車中で聴講し、現地に向かいま

その後、熊本県芦北地域振興局内に設置されている「芦北地区特定民有林直轄治山対策室」に立ち寄り、片山雅明室長から「対策室の設置の経緯」、「事業規模や工事の進捗」などについて説明を受け、続いて、熊本県芦北地域振興局林務課の溝口班長からは、冒頭に発災直後から、これまでの九州森林管理局の取組について感謝の言葉があり、「芦北地域における民有林の被災状況」や「熊本県の治山対策の取組状況」について説明がありました。



若者プロジェクトのメンバーと講師の皆さん

我々が「国の機関として頼りにされていること」、「事業費31億円、36箇所の復旧工事を2年間で実施しなければならぬこと」など、国に課せられている大きな使命を感じました。

現地見学では、住宅や道路など甚大な被害が発生した箇所、復旧工事が既に完了している現場を見学し、改めて被害の大きさや復旧工事の大変さを、肌で感じることができました。

また、片山室長からは、「丁寧な説明で地元の理解を得ること」、「安全に工事を進めること」、「進捗管理をしっかりとやること」など、工事を進めるにあたっての心がけなどの話がありました。



現地見学の状況

今回、治山事業の役割などについて、現地見学を含めて学習し理解を深めることができたこと。また、国の職員として気概を持って仕事に取り組む大切さなどを実感することができ大変有意義な見学・学習会となりました。

鹿屋農業高校職場体験受け入れ

【大隅森林管理署】

大隅森林管理署では、毎年、鹿屋農業高校・農林環境科2年生の職場体験を受け入れていきます。今年度は、4名の生徒を11月15日から18日までの4日間受け入れました。

体験初日は、外山三男森林技術指導官より国有林の概要・大隅森林管理署の業務内容をパンフレット等を使用しながら説明し、その後、海岸の松林に移動しマツケムシや松くい虫による森林被害箇所をドローンにより上空から確認した後、抵抗性マツの植栽や松くい虫防除の空中散布等を行いながら松林が再生されていることについて学習しました。

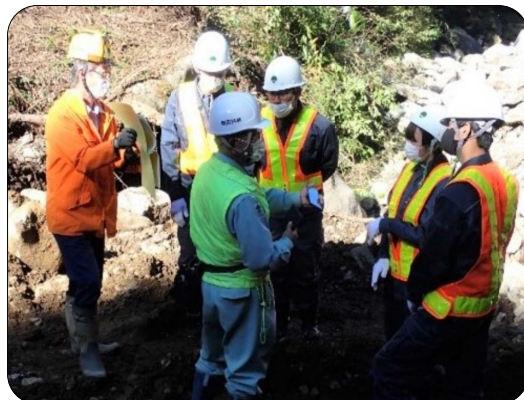
体験2日目は、現在工事中の土木工事及び治山工事箇所において、園田清隆総括森林整備官と下池和彦総括治山技術官より大雨や台風による自然災害箇所の復旧工事について、現場代理人より施工方法等について説明を受けた後、近隣の施工完了箇所での完成後の状況を確認しました。

体験3日目は、保育間伐（活用型）請負事業箇所において、伐倒から玉切り・運材作業の流れを見学し、その後、造林事業箇所へ移動し地拵方法等について学習しました。なお、当日は鹿屋農業高校の先生2名も特別参加となりました。

体験4日目となる最終日は、あいにくの天気となりましたが錦江町内の稲尾岳ビジターセンターに移動し、センター所長（鹿児島県森林インストラクター）より稲尾岳周辺の照葉樹林の現状、植生についてご指導いただきました。

最後に、この4日間の体験について感想を職員の前で発表していただき

ましたが、初めて見る伐採の現場や崩壊地等の復旧工事など授業では学習できないことや、自分の知らなかったことが多数あった模様で、今回の職場体験で、



治山工事の説明を受ける学生さん



プロセッサによる造材を見学

森林・林業への関心を深めていただけたと考えます。

秋の遠足で猪八重 溪谷を散策（森林 体験学習を実施）

【宮崎南部森林管理署】

11月17日、日南市立湯上小学校からの依頼で5年生15名を対象に「日本美しい森 お勧め国有林」に選定されている猪八重の滝風景林において、森林体験学習を行いました。



紙芝居を鑑賞する児童の皆さん

「森林からのおくりもの」を鑑賞した後、北郷森林ガイド「いつつの木」の案内で猪八重溪谷を約1.4km散策しました。猪八重溪谷では、コケの観察スポットでシラガゴケやヒツジゴケなどを

【宮崎北部森林管理署】

令和4年度みやざき 林業大学校（長期課 程）研修

11月24日、東臼杵郡美郷町にある宮崎県林業技術センターに於いて「令和4年度みやざき林業大学校研修」に、宮崎太守森林技術指導官が講師を務めました。

この研修は、宮崎県が平成31年度に将来の林業経営を担う有望な人材を育成するために開校され、今年度は21名の研修生を受け入れ1年間にわたり、座学、資格取得、実習を経て、林業に関する様々な就職先へ向けて活躍されていきます。

まず、講義内容として「林業労働災害防止のための安全管理について」、森林管理署の安全管理体制や職員及び各種事業体への安全指導の取り組みについて事例を挙げながら講義を行いました。続いて、「国有林における施業方針、施業状況及び施業体系」では、森林の公益機能重視を基本とする機能類型毎の施業方法や国有林が実施している事業内容等について計3時間の時間を

11月24日、東臼杵郡美郷町に於いて「令和4年度みやざき林業大学校研修」に、宮崎太守森林技術指導官が講師を務めました。研修生は18歳から31歳（女性2名を含む）と若い世代で、これからの林業を担っていく貴重な人材です。

今回の講義で、多少なりと国有林の取り組みや森林管理署の業務内容を知ってもらい、今後国有林野へ希望される方もいるのではと期待した研修となりました。



学習の森で記念写真



講義を聞く研修生の皆さん

湯上小学校では、5年生の総合的な学習の時間に「ふるさと学習」として位置づけた米作り

当日は、当署の若手職員の育成も兼ねて、最初に岩井颯汰技官から森林管理署の業務、猪八重の滝風景林、森林の持つ保水機能、山地災害防止機能、地球温暖化防止機能などについて説明、その後、田村舞・濱本桜両技官による紙芝居

「森林からのおくりもの」を鑑賞した後、北郷森林ガイド「いつつの木」の案内で猪八重溪谷を約1.4km散策しました。猪八重溪谷では、コケの観察スポットでシラガゴケやヒツジゴケなどを

林道現場において 安全パトロールを 実施

【大隅森林管理署】

11月29日、大隅森林管理署管内で九州林業土木協会鹿児島支部（支部長・小牧建設（株）小牧隆代表取締役）主催による合同安全パトロール研修会が、協会鹿児島支部各社及び県内各署から関係者総勢約50名が参加して開催されました。

午前中は、当署で実行中の「吾平2林道新設工事」の現場



工事現場での安全パトロール

防止について安全指導があり、「『安全』を見たことがありますか？目で見えるのは、危険だけ」との講話がありました。また、下池和彦総括治山技術官からは、日頃の安全活動に対してのお礼と、本日の点検結果について、良い点は安全対策に用い、改善点はそれぞれの現場において改善していただくようお願いし、災害の未然防止に努めていただくことを確認しました。コロナ禍で開催が2年ぶりとなりましたが、労働災

害の未然防止に努めていただくよう、また、本日の安全パトロールを契機として更なる安全意識の向上を図られますようお願いし、その後意見交換に入り、小牧支部長から本日の安全パトロールの点検結果について提起があり、各社から活発な意見が出され、充実したものとなりました。引き続き金津圭介次長より、労働災害の

午後からの研修会では神崎弘治署長より、法令等を遵守し、治山・林道事業における労働災害の未然防止に努めていただくよう、また、本日の安全パトロールを契機として更なる安全意識の向上を図られますようお願いし、その後意見交換に入り、小牧支部長から本日の安全パトロールの点検結果について提起があり、各社から活発な意見が出され、充実したものとなりました。引き続き金津圭介次長より、労働災害の

害の未然防止に取り組んでいくことを確認し有意義な合同安全パトロール研修会となりました。



安全研修会の状況

協議会は、高瀬智晶総括森林整備官の司会進行により、冒頭、井上智晴署長が「当署では昨年度からゼロ災が継続している。引き続き、各種安全対策に万全を期して頂きたい」との挨拶に続いて、菊池労働基準監督署長から「最近の労働災害の発生状況と林業の安全対策」について説明がありました。その後、甲斐誠一首席森林官から森林整備事業の概要と受注者の有限会社秋吉林業の社長から作業状況、安全対策等の説明があり、その後安全パトロールを実施しました。

協議会は、高瀬智晶総括森林整備官の司会進行により、冒頭、井上智晴署長が「当署では昨年度からゼロ災が継続している。引き続き、各種安全対策に万全を期して頂きたい」との挨拶に続いて、菊池労働基準監督署長から「最近の労働災害の発生状況と林業の安全対策」について説明がありました。その後、甲斐誠一首席森林官から森林整備事業の概要と受注者の有限会社秋吉林業の社長から作業状況、安全対策等の説明があり、その後安全パトロールを実施しました。

菊池労働基準との連絡協議会を開催

【熊本森林管理署】

11月30日、当署管内の上威国林で実行中の保育間伐活用型箇所において、当署、菊池労働基準監督署、林災防熊本県支部及び請負事業体関係者の32名が参加して、令和4年度の労働基準監督署との連絡協議会を開催しました。

安全パトロール終了後、参加者全員でパトロールの結果について意見交換を行うとともに、菊池労働基準監督署長及び担当官からチェンソー使用時の保護具の着用と急斜面における伐倒作業時の待避方法等について指導して頂きました。

最後に、参加者全員で中村雄二次長のかげ声に合わせ「ゼロ災で行こう、ヨシ！」を三唱し、年度末までこれ以上の災害は絶対に出さない、出させないことを誓い



連絡協議会の状況



安全パトロールの状況

